

令和元年度 JERT 主催 「Brush Up Seminar in 大阪」 参加報告記

風早会 外科野崎病院 須賀龍也

このたびの台風 19 号で被災された多くの皆様に心からのお見舞いを申し上げます。

2019 年 10 月 19 日（土曜日）関西電力病院にて開催された「日本救急撮影技師認定機構主催 小児救急 技術と知識で救え！」に参加してまいりましたが、会場内は瞬く間に一杯になりました。

私自身、小児の外傷撮影は携わっており、小児の外傷・救急撮影には大変興味を持っておりました。講演 1 では、「小児病院の救急検査について ～増えてます 虐待児の緊急検査～」を大阪母子医療センター放射線部門 阿部 修司 先生、講演 2 では「外傷小児の実臨床 ～救急外来編～」川崎医科大学附属病院救急科 副部長 宮本 聡美 先生からのお話を聞くことができ 本当に勉強になりました。

阿部先生の施設では専門病院ならではの撮影台の使用、撮影のタイミング、介助者への被ばく低減への工夫、また撮影室自体も子ども達が安心できるような配色、塗装が施されていました。特に小児撮影では、限られた時間、スペースの中で如何に短時間で固定をしながら診断に役立つ画像を提供できるか、宮本先生のお話では、小児の身体的特徴、アレルギー、被ばくについて、頭部 CT 撮影の基準となる PECARN (Pediatric Emergency Care Applied Research Network)、小児外傷による沢山の症例、術後の経過を紹介して下さい、本当に勉強になりました。私も小児の撮影では一人で何でもしようとせず、必要な場合はスタッフに協力を要請しますが、中でも患者情報は勿論ですが、まず年齢、撮影部位を確認して撮影条件の設定を予めしておく、“痛くないような、不快にならないような”環境設定などを行ってから入室してもらいます。撮影室は薄暗く親御さんも、特にお子さんは痛みと不安で一杯だと思います。その中で迅速な撮影を行い、診断に役立つ画像を提供し、また撮影に協力してもらえりような接遇も心掛けないといいません。私は“がんばりましたシール”を撮影終了後はプレゼントして意外と喜ばれています。そして、講習会後は役員の方と自施設における小児撮影の実情を聴くことができました。

今回の講習会で、小児外傷救急撮影における再確認と自施設でできることが見えてきました。最後にこのような貴重な講習会を開催して下さった機構の方々、会場の準備・設営のスタッフの方々に心より感謝申し上げます。

令和元年 10 月吉日

